

# 政治家の属性と代表に関する研究の展望

——記述的代表と実質的代表の結節点——

西 村 翼\*

## 目 次

1. はじめに
2. レビューの方法
3. 当該分野の概況
4. 当該分野の課題
5. おわりに

## 1. はじめに

本研究は、近年研究の深化が著しい、政治家の属性が代表にもたらす影響に関する研究の進展について、分析と考察を行う。ここで属性と称しているのは、ジェンダーや人種のような主要なものから、地縁、社会階層、世襲などを含む、自らの意思で変更困難な個人レベルの要因である。なお、本稿では前職や学歴といった経歴も広く属性に含める。経歴を事後的に変えることはできず、特に出馬を検討する段階では既にそれまでの経歴を変更不能だからである<sup>1)</sup>。また、本稿は政治家の中でも特に議員や議会選挙の候補者に注目して検討する。

---

\* にしむら・つばさ 立命館大学法学部准教授

1) 予め定まっているという点や事後的な変更の困難さが属性という要因の中核となる特徴である (Shugart et al. 2005)。例えば同じく政治家個人レベルの要因でも当選回数や選挙の強さ、役職配分などとは変更可能性の高さで区別できる。

本稿は、ジェンダーや人種<sup>2)</sup>に留まらず、幅広い属性の議員による記述的・実質的代表を扱った研究について、準体系的レビューを通した分析を行う。ジェンダーや人種のような、特に研究の蓄積が進んでいる属性については、既にレビュー論文が存在している<sup>3)</sup>。しかし、様々な属性を包括的に扱ったレビューは、管見の限り見当たらない<sup>4)</sup>。ただし、本稿の目的は、網羅的に先行研究を調べ上げたり、個々の文献を詳細に検討することではない。本稿は当該領域の傾向と今後の展望を大まかに示すことを目指す。具体的には、第1に、様々な属性に関する議論の中から、共通の要素を抽出する。すなわち、属性を論じる際のフレームワークや方法上の共通点を明らかにする。第2に、研究が先行している属性とそうでない属性を明らかにする。第3に、先行して研究が進展している属性における知見を、他の属性の研究に応用できる可能性を探る。第4に、属性という広い範囲で見ると、何がこの分野の課題であるかを明らかにする。

本節の残る部分では、なぜ属性が検討に値する重要な要因であると言えるかを述べておきたい。第1に、属性は、記述的代表と実質的代表を繋ぐものである。記述的代表は政治的エリートの属性構成が有権者の構成を正確に反映した縮図となっているかを問う(ビトキン2017)。政治エリートの属性面での構成が、様々な観点から見て有権者における分布の縮約版となっていれば記述的代表の程度は高く、特定の属性を有する議員が過大／過少にしか代表されていない場合、記述的代表の程度は低い。一方で、実質的代表は、実際に政治的エリートが特定有権者層のために行動しているかど

---

2) 人種 (race) とエスニシティ (ethnicity) は区別して用いられることも多いと思われるが、本稿では「人種・エスニシティ」とひとまとめにして呼称する。

3) ジェンダーについては Wängnerud (2009)、Lawless (2015)、芦谷 (2020a; 2020b)、Ono & Endo (2024) など、人種・エスニシティについては Griffin (2014)、経済的背景については Carnes & Lupu (2023) などがある。Ono & Endo (2024) はジェンダースtereotype等に由来する記述的代表における格差に、芦谷 (2020a; 2020b) は代表論制的転回に特に注目したレビューとなっている。

4) 包括的に属性を扱っているレビューとして Krcmaric et al. (2020) があるが、これは議員ではなく首相や大統領といったリーダーの属性に注目したものである。

うかを問う（ピトキン2017）。特に、女性議員が女性有権者の利益を推進するかどうかといったように、ある属性を有する議員が、その属性を共有する有権者のために活動するかどうか分析されがちである（Hutchings & McClerking 2004; Curry & Haydon 2018; Bektas & Issever-Ekinci 2019; Kweon & Ryan 2022など）。属性は記述的代表と実質的代表の両方に関わっており、その結節点としての役割を持つ。

第2に、属性は議員本人の意思によって変更し難いという特徴がある。方法論上は、自らの意思で変更できないことは、セルフ・セレクション・バイアスが小さいことを意味する。例えば、役職が得票に与える影響を分析する場合、役職所属は議員自身の取り組みによって変動し得る。再選に不安を持つ議員が選挙に有利とされる役職を積極的に獲得しようとする場合、選挙の強さと役職所属は内生的な関係となり、因果効果の推定にバイアスが生じうる。しかし、属性は自らの意思で変更できないため、このような問題は生じない<sup>5)</sup>。より広く研究戦略に関していえば、属性は他の要因の影響によって変動しにくいいため因果関係上流の変数として、他の多くの要因に影響する。議員の議場行動や政府としての政策を説明する政治家個人レベル変数は多くあるが、議員属性は因果関係の上流に位置する要因として積極的な検討に値する。

第3に、属性は、制度や政党の影響による説明を補完する。選挙制度をはじめとした制度は、議員の行動や立場について説明する要素として最も重視されてきたものであると言えよう。例えば、多くの研究が、選挙制度が議員の個人投票獲得誘因を規定することを前提として、種々の議員行動を説明してきた（Carey & Shugart 1995; Depauw & Martin 2009など）。しかし、1つの制度の下にも多様な属性を備えた議員が存在する。属性によって政治家の言動が規定される面があるとすれば、これは同じ制度・同じ政党の下に様々な考えを有する議員が存在することを意味する。これを踏まえる

---

5) ただし、これは同一個人内での変動が起こらないことを意味するのみである。例えば政党の擁立戦略によって属性が規定されることはあり得る（例えば、西村2020）。

と、制度や政党が変わっても政治家の属性が変わらなければ政策や代表の質も変わらない可能性があるということになる。

上記の目的のため、本稿は準体系的文献レビューを用いる。この枠組みにしたがい、定まった規則にしたがってレビュー対象とする文献を絞り込み、各文献が分析しているものをなるべく数量的に把握することを目指した。これを通して、各文献で特に注目されている属性は何か、説明変数と結果変数の組み合わせとしてはどのようなものが分析されているのかを分析した。分析の結果、属性の中でもジェンダーや人種・エスニシティに関する研究が先行していること、特に記述的代表に関する研究においてジェンダー研究が先行していること、実質的代表に関する研究は政策に関する代表に偏重していることなどがわかった。

以下、本稿は次のように展開する。まず本稿の手法を記述し、その後レビューに移る。レビューから得られた含意を整理した後、残された研究課題を整理して結論とする。

## 2. レビューの方法

### 2.1 準体系的レビュー

Snyder (2019) は文献レビューを体系的 (systematic) レビュー、準体系的 (semi-systematic) レビュー、統合的 (synthetic) レビューの3種類に分類している。体系的レビューは、メタアナリシスに代表されるように、同様の概念を分析している研究を定まった基準によって選び出し、先行研究から得られたデータによって特定の問いや仮説に関する結論を得る方法である。次に、準体系的レビューは、効果の検証よりも分野の歴史的な展開や異なる発展の潮流の検討、文献間で共通の枠組みの抽出などを目的になされるものである。これは、対象となるテーマで用いられる概念やその測定方法、論点等が十分に統一されていない場合などに有用な方法である。準体系的レビューにおいては、体系的レビューのように定まった基準によっ

て文献を選び出すかどうかは場合による。最後に統合的レビューは、より広範かつ抽象的な分野に対して用いられ、新たな概念や理論の創出を主たる目的とするものである。

本研究は準体系的レビューを行う。これは、当該分野が体系的レビューを行えるほど規格化されたものではない一方、統合的レビューを行う必要があるほど無体系ではないと思われるためである<sup>6)</sup>。また、準体系的レビューは、トピックが異なる分野の研究者によって行われている場合にも推奨されている。属性についてはジェンダーと政治や人種的マイノリティについての研究、議員行動研究などの多様な潮流が入り込んでおり、属性と代表という観点での統合的な見取り図は示されていない。このような状況においては、まず一定の基準によってある程度機械的に文献を収集した上で相互の関係を確認し、共通部分・非共通部分を抽出することが重要であろう。このような目的に照らせば準体系的レビューは有用な方法と言えよう。

## 2.2 対象論文の絞り込み<sup>7)</sup>

本稿では、Google Scholar において検索を行い、得られた検索結果から条件に適合する論文を絞り込んでレビューの対象とすることとした<sup>8)</sup>。用いたクエリは「“personal attributes” AND (“substantive representation” OR “descriptive representation”) AND (“legislator” OR “legislators”）」である<sup>9)</sup>。この検索で得られた結果（354件）のうち、以下の点で条件に適合するものを抽出した。第1に、書籍や学会報告などではなく、雑誌に掲載された論

---

6) 候補者のジェンダーが有権者からの評価に与える影響についてはメタアナリシスが存在する (Schwarz & Coppoke 2022)。

7) レビューの具体的な手順としては Snyder (2019)、Xiao & Watson (2019)、Lo et al. (2023) を参考にしている。

8) なお、検索結果は2025年5月24日時点のものである。レビュー対象の絞り込みを行う際には Google scholar のみならず、Web of Science と EBSCOhost でも同様のクエリを用いた検索を行ったが、Google scholar が最もヒット数が多く、かつ想定に近い文献がヒットしたため、ここでは Google Scholar のみの検索結果を用いることとした。

9) このクエリを用いる時点で、対象は英語で書かれた研究に絞られる。

文のみを用いた（ここまでで該当したのは142件）。第2に、引用件数が0回の研究は取り除いた（ここまでで該当したのは117件）。第3に、研究内容に関して本研究の対象外と思われる文献を除いた。具体的には、独自の実証研究を行っていないレビュー論文や、政治家以外による代表の研究が入り込んでしまった<sup>10)</sup> ため、それらを除去した。ここまでの絞り込みの後に残った77件をレビューの対象とする。この77件については、補遺の表 A1を参照されたい<sup>11)</sup>。

### 3. 当該分野の概況

本節では、準体系的レビューから得られた情報を要約することで、この分野の発展について大まかに示したい。

文献の出版年と主たる分析対象となっている属性を整理したのが図1である。まず、この図の作成にあたり、各論文の分析対象についてどのようなコーディングを行ったかを説明する。ここでのコーディングの目的は、大まかな研究動向の把握である。コーディングの手順としては、はじめに各論文で主に取り上げられている属性を書き出した上で、近いと思われるものをグルーピングした。例えば黒人の代表やラテン系の代表に関する研究は「人種・エスニシティ」、特定の属性に限定せず広く属性の効果を検討する研究は「個人属性」のようにまとめた。

さて、図1からは以下のような点が読み取れる<sup>12)</sup>。第1に、議員属性に

---

10) 特に裁判官の属性に関する研究が入り込むことが多かった。

11) 1つ目と2つ目の基準は、ある程度有力な研究に絞込むために設けた基準である。「有力な研究」とは何かについての合意があるわけではないだろうが、平均的には英文雑誌に掲載された論文が高い水準を満たしていると思われることから、以上のような基準を設けた。書籍に関しては入手可能性の観点から除外した面もある。

12) なお、図中の度数の合計はレビュー対象の論文数と一致しない。単一の論文内で複数の属性を扱っている場合、図中ではそれぞれ別々にカウントしたためである。例えばジェンダーと人種の両方を扱っている研究は、ジェンダーと人種それぞれで1件ずつとカウントしている。煩雑さを避けるため、出版年は3年ごとにグループ化して集計した。なお、最

政治家の属性と代表に関する研究の展望（西村）

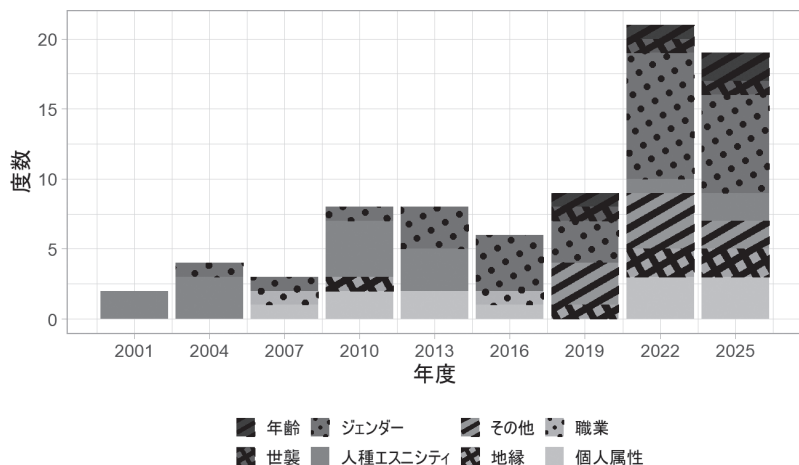


図1：レビュー対象の論文で扱われている属性

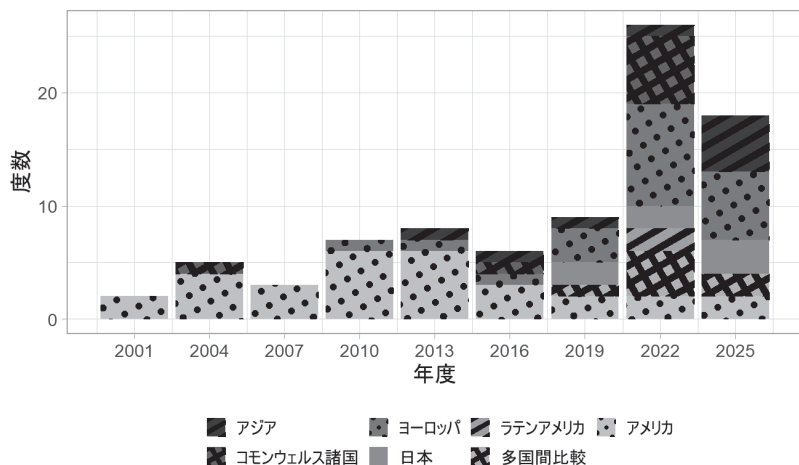


図2：レビューの対象国・地域

も新しい2023～2025年出版のカテゴリーについては、データ収集時点（2025年5月）で2025年が途中のため、2025年末時点ではより数が増えるものと思われる。

関する研究は長期的には増加傾向である。第 2 に、2000 年代初頭には人種・エスニシティに関する研究が主流であったが、徐々にジェンダーに関する研究が多くなっている。第 3 に、ジェンダーや人種・エスニシティに関する研究のシェアが依然として高いものの、分析対象となる属性の多様化が進んでいる。

次に図 2 を見てみよう。この図は分析対象となる国ないし地域に注目して、図 1 同様に出版年ごとの経時変化を可視化している。この図を見ると、2000 年代初頭にはほとんどの研究がアメリカを分析対象としていたのに対し、近年は対象国の多様化が進んでいることがわかる。日本を対象とした研究も増加している。人種・エスニシティに注目する研究は特にアメリカで多くなされていることから、アメリカを対象とした研究のシェアが相対的に低下していることが、図 1 で確認した人種・エスニシティに注目する研究のシェア低下と対応していると思われる。

図 1 と図 2 より、分析対象となる属性および対象国いずれについても、近年多様化が進んでいることが確認できたところで、多様化する研究の位置付けについて確認しよう。図 3 では、レビュー対象の論文から説明変数と結果変数をそれぞれコーディングし、該当する研究の数で色分けしたヒートマップである<sup>13)</sup>。コーディングの方法としては図 1 同様、近いと思われるものをグルーピングしていった。また、塗りつぶしのパターンを実験研究の有無で分けている。この図から、どの組み合わせで研究が行われる傾向にあるのか、どの属性が多様な変数と関連付けて研究されているのか、

13) Lo et al. (2023) の方法を部分的に参考としている。Lo らは文献の関係をネットワークとして表現している一方、本稿の場合同一の要因が原因にも結果にもなっていることが少なく、ネットワーク分析の利点を生かしきれないと考えた。むしろ説明変数と結果変数の関係を網羅的に示すには、ヒートマップの方が優れていると思われる。なお、図 1・2 では各論文の中心となる属性のみを取り出しているが、図 3 は論文文中で扱われている属性とその原因および帰結となる要因すべてを対象として作成している。例えばコンジョイント実験を用いて複数の属性の効果を検討している研究については、それらの属性すべてを対象として作図した。「選挙区特性」には、問題となっている属性を持つ有権者の各選挙区における割合なども含まれる。



政治家の属性と代表に関する研究の展望（西村）

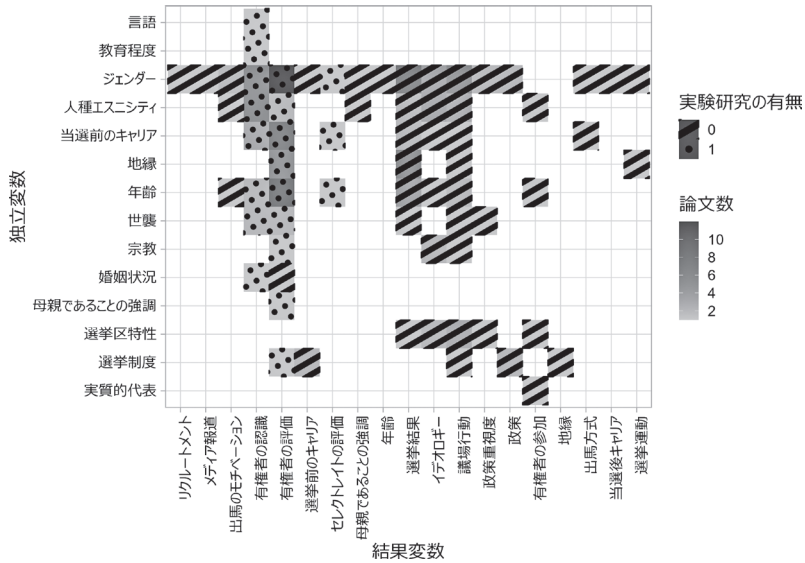


図3：結果変数と説明変数から見る研究の多様性

どの属性に関する研究が手薄なのかを検討することができる。

図3からは以下のような点が読み取れる。第1に、説明変数に着目すると、ジェンダー研究が最も多様な結果変数をとっている。この意味でジェンダーが最も研究が進んだ属性であると言え、ジェンダー研究の議論を下敷きにしつつ他の属性に関する研究でも結果変数として検討すべき要因が依然多く残されていることを示唆している。特に注目されるのは、とりわけジェンダー研究が先行しているのは記述的代表に関する側面だと思われる点である。例えばジェンダーに次ぐ充実を見せている人種・エスニシティに関する研究であっても、メディアでの報じられ方やリクルートメントにおける特徴の研究は相対的に手薄である。これは、とりわけジェンダー

で記述的代表における格差が目につきやすいことの反映かもしれない<sup>14)</sup>。ジェンダーと人種・エスニシティに関する研究を除くと、実験を用いてステレオタイプ等の有権者の認知を調べる研究は少なくなる。

関連して、記述的代表を説明する研究で実験が多く用いられている。これは、記述的代表における格差が、少なくとも部分的には有権者による差別やステレオタイプを介して生じると考えられていることから、多くの研究が実験を用いてこれを検証しているためである（例えば Huddy & Terkildsen 1993; Pas et al. 2022、ジェンダー以外に注目する例外として McDermott 2005; Ascencio & Malik 2024; Nyholt 2024 など）。

第 2 に、結果変数に注目すると、実質的代表に関する観察研究では、政策的アウトプットやアウトカムよりも、議場での行動に注目する研究が多い（Wilson 2010; Martin 2011; Casellas & Leal 2013; Curry & Haydon 2018; Bektas & Issever-Ekinci 2019; Kweon & Ryan 2022）。実際に特定の有権者層の利益になるかという観点では政策的アウトプットやアウトカムが最も直接的な指標であろうが、個人レベルの要因に着目する場合、個々の議員の影響力によって政策帰結が左右されることは多くはないと思われ、政策帰結そのものよりも点呼投票や法案提出によって議員が特定有権者層の利益を代表しようとしたかが分析される傾向にある<sup>15)</sup>。

#### 4. 当該分野の課題

本節では、これまでの検討を踏まえ、当該分野における 4 つの相互に関

---

14) 人種に関する代表の問題が、主としてアメリカで大きな問題になっているということとも関連があると思われる。これに対し、ジェンダーに関する代表が問題となっていない国は極めて稀であろう。

15) 今回は検索対象から除外しているものの、政策的アウトプットやアウトカムへの影響が比較的大きいと思われる自治体の首長のような独任制の執政長官の属性に注目する研究には、政策的アウトプットないしアウトカムを結果変数とした分析ものが多い（Vanderleew & Sandovici 2011; Suzuki & Avellaneda 2018; Mori et al. 2024 など）。

連する課題を指摘する。

#### 4.1 対象となる属性

第1に、研究対象となる属性の種類の問題がある。これまでに議論してきたように、ジェンダーや人種・エスニシティに関する研究が数としては多くなっている。これら以外に、社会階層や年齢、地域の代表に関する研究もいくらか存在するが、ジェンダーに注目した研究ほどには多くない。こうした属性について、一層の研究が必要であろう<sup>16)</sup>。特に、ジェンダーや人種・エスニシティを中心になされてきた議論を、それ以外の属性に拡張していく必要があるだろう。

ただし、こうした拡張にはいくつかの困難があると思われる。まず、対象となる属性を持つ政治家の数の問題である。例えば世襲議員は日本（特に自民党）にはある程度の割合で存在するため、計量分析に耐えうる数が集められる（例えば、Muraoka 2018など）。しかし、日本やアイルランドを除く多くの先進民主主義国では世襲議員は議会の5%前後しか存在せず（Smith 2018: 5）、計量分析を用いる上では困難が残ると思われる<sup>17)</sup>。このような場合、Burden（2007）のような質的分析を行う他ないかもしれない。

関連して、属性の測定方法の問題もある。例えば社会階層や地縁などについては、測定方法に関する合意がなく、研究ごとに様々な指標で測定されている（社会階層の測定については、Carnes & Lupu 2023: 254-255）。地縁に関しても、測定方法に合意がない<sup>18)</sup>。今後の研究の進展のため、測定のための指標についての整理が必要のように思われる<sup>19)</sup>。

---

16) もっとも、わざわざ“representation”という語を使う論文がジェンダーや人種・エスニシティの研究に多いだけという可能性はある。

17) この点については、人種・エスニシティの研究でも同様の問題があるように思われる。人種・エスニシティに関する研究は一定の数を集められる黒人およびラテン系の代表に集中している。

18) ジェンダーや人種・エスニシティに関する研究が比較的進んでいる背景として、比較的測定が単純であることが挙げられるかもしれない。

19) 有権者の認知が重要な場合は、コンジョイント実験などを用いて特に有権者に重視されるのはどの側面かを明らかにし、同じ属性を測るのでも具体的にどのような指標を用いる

## 4.2 記述的代表

第2の限界として、記述的代表に関する研究は領域が限定されることが挙げられる。記述的代表に関連する研究は少なくなく、特に実験研究が多くなされている。しかし、その多くがジェンダーに関するものか、コンジョイント実験を用いて複数の属性を一括して扱う研究である (Horiuchi et al. 2020; Rehmert 2022; Miwa 2024など)。ジェンダーにかかわる研究では、有権者のバイアスやメディアでの扱い、リクルートのパターンなど過少代表のメカニズムに迫る実験研究が多くなされているが、ジェンダー以外の属性については、過少代表に至るメカニズムに踏み込んで分析した研究は多くない。こうした研究をジェンダー以外の属性についても拡張していく必要があると思われる。

## 4.3 実質的代表

第3に、実質的代表に関して、分析されているのが政策応答性に限られるという問題がある。ここでの問題はさらに2つに大別できる。第1に、Eulau らによると、代表には政策応答性、サービス応答性、配分応答性、象徴応答性という4つの分類ができる (Eulau & Karper 1977; Russo 2022: 21)<sup>20)</sup>が、政策応答性以外の応答性は分析が少ない。第2に、政策応答性は点呼投票で測定されがちである。こうした研究動向にはアメリカ中心的な側面もあると考えられる。配分応答性や政策応答性は確かに政策帰結に直結する重要な要因であるが、それ故に政党からの干渉を招くため、議員個人と

---

べきかを検討できるかもしれない。

- 20) 政策応答性は左右イデオロギー位置のような政策選好に近いことをもって代表が成立していると見做す。サービス応答性は、ケースワークのような、政策というより議員個人の活動としてのサービス提供に関する代表性を指す。配分応答性は、個別利益的な政策を通じて特定の人々に利益を配分することによる代表である。象徴応答性は、直接の利益になるわけではないが、特定の人々にシンボリックにアピールすることで成立する代表性である。なお、実際にはこの4つに分類することが難しい代表のあり方も存在する。例えば多くの研究が扱っている女性や人種マイノリティの利益に関する法案の提出や賛成の議場投票といった指標は、4つの類型のうちどれに該当するかが明確ではない。

しての応答性を確認するのが難しい。アメリカのように相対的に政党による統制が緩い国を別として、日本を含む多くの国では利用が難しいと考えられる。これに対し、例えば象徴応答性には政策帰結に直結する影響力がないからこそ、政党の統制下でも観察しやすい。このように、アメリカ以外の国では政策応答性や点呼投票以外に注目した検討が求められる。

関連して、属性が議員の言動に影響するメカニズムが十分に明らかにされていないという問題もある（Krcmaric et al. 2020: 135-136）。実験を用いてメカニズムの検討を進めている記述的代表に関する研究と異なり、細かくメカニズムを把握していくことが難しいのである。単に個々の議員の議場行動を観察するのと、政策帰結を直接分析することの間にある要因、例えば議員間の共同関係における属性の効果などを分析していく他ないと思われる。特に属性と議員行動や政策帰結の関係を調整する要因として重要なのは政党であろう。実際アメリカでは党派を条件にしたような分析が多くあるが、より複雑な政党システムを持つ他国ではそれも簡単ではない。

#### 4.4 因果推論

第4の課題として、属性と因果推論（causal inference）の枠組みとの相性の問題がある<sup>21)</sup>。これまで述べてきたように、属性は他の要因の影響で変化しにくい<sup>22)</sup>。この特徴は、因果推論における「介入なくして因果なし」との命題と相性が悪い。また、属性は各個人の中で最も初期の段階で割り当てられる要因であるため、他の全ての共変量が処置後変数となり、回帰分析等で共変量を統制できなくなるという問題もある。こうした理由から、属性は因果推論で用いるべきではないという主張がある。

他方、属性の概念を再検討し、慎重な分析を行うことで、属性に関して

---

21) 以下の記述は主に Sen & Wasow (2016) による。

22) なお、この点に関して Krcmaric et al. (2020) のいう社会化経験と生まれつきの特徴の区別が重要になる。後者は本文中の記載のように変動しない要因だが、前者はある程度の変動が生じうるため、それぞれ異なる取り扱いが必要となる。

も因果推論の俎上に乗せられる研究も存在する（例えば、Sen & Wasow 2016; Greiner & Rubin 2011）。Sen らは、属性を普遍の要因と想定するのではなく、複数の関連する要因からなる集合体（bundle of sticks）と想定するべきだと指摘する。その上で、こうした関連要因の中には操作可能性が高いものがあり、こうした要因に注目することで因果推論を行うことができるという<sup>23)</sup>。

## 5. おわりに

本研究は、議員の属性に注目して記述的代表および実質的代表を論じる研究について、大まかな研究動向を示した上で将来の展望を提供するものであった。具体的には、準体系的レビューを用いて、記述的代表と実質的代表にかかわる研究を整理した。その結果、やはりジェンダーや人種・エスニシティに関する研究が先行していること、特にジェンダー研究において記述的代表の議論が先行していること、また、実質的代表に関する研究は、点呼投票を用いたものをはじめとした政策的代表に関する代表に集中している。

本稿の議論から、着実な発展が見込められると思われるのは、記述的代表に関する研究をジェンダー以外に展開していくことである。他方、実質的代表に関しては課題が多いものの、長期的にはこちらにも取り組んでいく必要があると思われる。特に、各国の事情に応じて、結果変数を様々な方法で測定していくことが求められる。

最後に、本研究の課題を述べておきたい。最大の課題は、レビュー対象を絞り込む際のクエリの作成方法である。明確に記述的代表や実質的代表の文脈で議論をしていないため、属性を扱っているものの本稿のレビュー対象となっていない研究があると思われる。ただ、簡潔なクエリによって

---

23) また、実証上の利点として、属性は連続量をとらず、ダミー変数として分析されることが多いため、このような処置のあり方を想定することが多い因果推論の手法とは相性が良い面もあるかもしれない。

こうした研究を網羅することは困難であると思われ、ここでは明示的に代表論の文脈を意識している研究に対象を限った。また、先行研究が推奨する、複数の著者によるコーディングのクロスチェック（Xiao & Watson 2019: 105）も実施できていない。こうした限界を踏まえつつ、体系的なレビューを続けていく必要があると思われる。

## 補遺：レビュー対象となった文献一覧

表 A1 レビュー対象となった文献とコーディング

文献	中心となる属性	説明変数	結果変数	分析対象	実験
Snagovsky et al. (2020) Study1	人種・エスニシティ	人種的マイノリティの記述的代表	(政府の応答性に関する) 有権者の認識	オーストラリア	0
Snagovsky et al. (2020) Study2	人種・エスニシティ	人種・エスニシティ、言語、ジェンダー、年齢、婚姻状況、前職、教育程度	有権者の認識	オーストラリア	1
Gay (2002)	人種・エスニシティ	有権者の人種	(同じ人種の政治家に対する) 有権者の認識	アメリカ	0
Wilson (2010)	人種・エスニシティ	人種（ラテン系）	人種に関する法案共同提出	アメリカ	0
Barnes & Saxton (2019)	社会階層	労働者階層の記述的代表	議会による代表に関する有権者の認識	ラテンアメリカ諸国	0
Rocca et al. (2008)	ラテン系議員の個人属性	ジェンダー、教育程度、移民、年齢、人種（ラテン系）	点呼投票	アメリカ	0
Jeong (2013)	人種・エスニシティ	選挙区の構成、マイノリティ保護政策	ラテン系の政治参加	アメリカ	0
Curry & Haydon (2018)	年齢	選挙区の構成、年齢	高齢者政策に関する法案提出	アメリカ	0
Horiuchi et al. (2020)	個人属性	ジェンダー、年齢、教育程度、地縁、世襲、前職	有権者の評価	日本	1
Kweon & Ryan (2022)	ジェンダー	選挙制度、ジェンダー	(女性関連の) 法案の提出と成立	韓国	0
Forman-Rabinovici & Beeri (2024)	ジェンダー、人種・エスニシティ	ジェンダー、人種・エスニシティ	市民の満足	イスラエル	0
Rocca & Sanchez (2007)	人種・エスニシティ	人種（黒人、ラテン系）	法案提出と共同提出の数	アメリカ	0
Poggione (2004)	ジェンダー	選挙区の構成、ジェンダー	福祉政策における政策選好	アメリカ州議会	0

文献	中心となる属性	説明変数	結果変数	分析対象	実験
Ulbig (2007)	ジェンダー	女性の記述的代表	政治信頼	アメリカ市町村議会	0
Rocca et al. (2009)	人種・エスニシティ、個人属性	黒人、年齢、宗教、軍隊経験	イデオロギー (点呼投票)	アメリカ	0
Miwa (2024)	個人属性	ジェンダー、年齢、教育程度、前職、世襲	候補者のポピュリスト態度に関する認識、有権者からの評価	日本	1
Rehmert (2022)	個人属性	年齢、ジェンダー、教育程度におけるセレクトレイトとの一致、前職	セレクトレイトの評価	ドイツ	1
Jacob (2014)	ジェンダー	ジェンダー	議会質問数	インド	0
Weeks & Baldez (2015)	ジェンダー	クオータで選抜された女性	候補者の質 (教育程度、収入、政治経験、議会活動)	イタリア	0
Preuhs & Juenke (2011)	人種・エスニシティ	少数派多数選挙区 (majority-minority districts)、選挙区の構成、ラテン系	イデオロギー (点呼投票)	アメリカ州議会	0
Fox & Lawless (2005)	個人属性	ジェンダー、人種・エスニシティ、年齢	出馬意欲	アメリカ	0
Hero & Preuhs (2010)	人種・エスニシティ	黒人、ラテン系	点呼投票で測ったイデオロギー位置	アメリカ	0
Cobb & Jenkins (2001)	人種・エスニシティ	黒人	点呼投票で測ったイデオロギー位置	アメリカ	0
Söderlund & von Schoultz (2024)	個人属性	地縁、年齢、ジェンダー	候補者の得票の変遷	フィンランド	0
Put et al. (2018)	地縁	PR リストにおける地縁を持つ候補の存在	政党レベルの得票	ベルギー	0
Fiva et al. (2021)	地縁	PR リストにおける地縁を持つ候補の存在	政党への支持	ノルウェー	0
Casellas & Leal (2013)	移民	選挙区の構成、ジェンダー、宗教	移民に関する立法における点呼投票	アメリカ	0
Becerra-Chávez & Navia (2022)	ジェンダー	選挙区の構成、ジェンダー	得票	チリ	0
Martin (2011)	個人属性	ジェンダー、世襲	地元に関する争点での議会質問	アイルランド	0
Bektas & Issever-Ekinci (2019)	ジェンダー	ジェンダー	女性関連争点に関する法案提出と共同提出	トルコ	0
Tavits (2010)	地縁	地縁	得票、造反	エストニア	0
Sweet-Cushman & Bauer (2024) Study1	インターセクショナリティ	人種・エスニシティ、ジェンダー	キャンペーンにおける母親であることの強調	アメリカ	0
Sweet-Cushman & Bauer (2024) Study2	インターセクショナリティ	人種・エスニシティ、ジェンダー	母親であることのアピールが有権者からの評価に与える影響	アメリカ	1



政治家の属性と代表に関する研究の展望（西村）

文献	中心となる属性	説明変数	結果変数	分析対象	実験
Magni & Reynolds (2021)	LGBTQ	LGBT	有権者からの評価	アメリカ、イギリス、ニュージーランド	1
Ascencio & Malik (2024)	世襲	世襲	有権者からの期待	パキスタン	1
Wagner (2021)	LGBTQ	LGBTQ	出馬へのためらい	カナダ	0
Sharpe & Garand (2001)	人種・エスニシティ	選挙区割り変更による人種構成の変化	点呼投票で測ったイデオロギー位置	アメリカ	0
Frederick (2013)	ジェンダー	ジェンダー	点呼投票で測ったイデオロギー位置	アメリカ	0
Matos et al. (2021)	インターセクショナルリティ	人種・エスニシティ、ジェンダー	マイノリティ女性議員増加への評価	アメリカ	0
Hutchings & McClerking (2004)	人種・エスニシティ	選挙区の構成、南部選挙区	黒人関連争点での投票	アメリカ	0
Sevi (2021)	年齢	リーダーとの年齢の近さ	得票	世界各国	0
Banducci et al. (2004)	人種・エスニシティ	人種・エスニシティ	民主主義の機能	アメリカ、ニュージーランド	0
Kaur & Philips (2025)	ジェンダー、カースト	クオータに関する刺激	有権者からの評価	インド	1
Carella & Eggers (2024)	地縁	選挙制度	地縁	世界各国	0
Pas et al. (2022)	ジェンダー	ジェンダー	有権者からの評価	オランダ	1
Van de Voorde (2019)	議席の併任	議席の併任	得票	ベルギー	0
Karekurve-Ramachandra (2024)	ジェンダー	ジェンダークオータ	議員によるサービスの質に対する有権者の認知	インド（ムンバイ議会）	0
Muraoka (2018)	世襲	世襲	選挙公報から測定した個別主義	日本	0
Quoß et al. (2024)	個人属性	ジェンダー、年齢、地縁	有権者の評価	スイス	1
Medir et al. (2024)	ジェンダー	市長のジェンダー	社会的背景、リクルートメント、政策の優先度	ヨーロッパ諸国	0
Townsend & Trumm (2022)	個人属性	ジェンダー、地縁	個人化された選挙キャンペーン	イギリス	0
Nyholt (2024)	地縁	地縁、年齢、ジェンダー、職業	有権者の評価	デンマーク	1
Saito (2025)	年齢	年齢、職業、学歴、ジェンダー、地縁	有権者の評価	日本	1
Miwa et al. (2022)	ジェンダー	ジェンダー	メッセージの説得力	日本	1

文献	中心となる属性	説明変数	結果変数	分析対象	実験
Schwarz & Coppock (2022)	ジェンダー	ジェンダー	有権者の評価	世界各国	1
Kang et al. (2021)	ジェンダー	ジェンダー、年齢、結婚、移民、人種・エスニシティ、言語、職業、教育程度	有権者の評価	オーストラリア	1
Frederick (2010)	ジェンダー	ジェンダー	点呼投票で測ったイデオロギー位置	アメリカ	0
Pereira (2021)	ジェンダー	キャンペーン資源のジェンダーギャップ、女性候補の比率	女性への投票	ブラジル	0
Batto (2013)	個人属性	ジェンダー、地縁、人種・エスニシティ	得票	台湾	0
Foster Shoaf & Parsons (2016)	ジェンダー	ジェンダー	メディア報道	アメリカ大統領候補	0
Mathew (2018)	宗教	福音派	点呼投票から測定したイデオロギー位置	アメリカ	0
Folke et al. (2021)	ジェンダー、世襲	ジェンダー、世襲	得票	スウェーデン、アイルランド (別に12か国のデータも併用)	0
McClean & Ono (2024) Experiment 1	年齢	見た目の年齢	有権者の評価	日本	1
McClean & Ono (2024) Experiment 2	年齢	年齢	有権者の認識	日本	1
McClean & Ono (2024) Real-World Election	年齢	年齢	得票	日本	0
Lefkofridi et al. (2019)	ジェンダー	ジェンダーステレオタイプ	有権者の女性候補への評価	フィンランド	0
Campbell & Cowley (2014)	個人属性	ジェンダー、宗教、年齢、教育程度、前職、地縁	有権者の評価	イギリス	1
Frederick (2011)	ジェンダー	ジェンダー	点呼投票から測定したイデオロギー位置	アメリカ	0
McDermott (2005)	前職	前職	有権者の評価	アメリカ (カリフォルニア州)	1
Vanderleeuw & Sandovici (2011)	ジェンダー	市長のジェンダー	経済政策における優先度	アメリカ (テキサス)	0
Nowacki (Forthcoming)	ジェンダー	ジェンダー	現職優位	ノルウェー、スペイン	0

政治家の属性と代表に関する研究の展望（西村）

文献	中心となる属性	説明変数	結果変数	分析対象	実験
Vajda & Ilonszki (2021)	ジェンダー	ジェンダー	出馬方式、選挙結果	ハンガリー	0
Suzuki & Avellaneda (2018)	ジェンダー	ジェンダー	財政政策におけるリスク選好	日本（市長、市議会議員）	0
MacKenzie (2015)	前職	選挙制度（Australian ballot、予備選挙）	前職で測定した政治家の専門化	アメリカ	0
Frederick (2015)	ジェンダー	ジェンダー	点呼投票で測定したイデオロギー位置	アメリカ	0
Huddy & Terkildsen (1993)	ジェンダー	ジェンダーステレオタイプ	有権者の評価	アメリカ	1
Put (2021)	地縁	リーダーの地理的接近性	得票	世界各国	0
Mori et al. (2024)	ジェンダー	ジェンダー、ジェンダークォータ	公共政策の供給	インドの自治体議会	0
Sipinen & Söderlund (2024)	人種・エスニシティ	移民、ジェンダー、年齢、教育程度、選挙区の構成	得票	フィンランド	0
Cox et al. (2021)	候補者の質	収入、教育程度	リスト位置	ノルウェー、ポルトガル、イタリア	0
Lazarus et al. (2023)	ジェンダー	ジェンダー	年齢、当選後キャリア	アメリカ	0

## 参考文献

- Ascencio, S. J., & Malik, R., 2024. “Do voters (dis) like dynastic politicians? Experimental evidence from Pakistan.” *Electoral Studies*, 89.
- Banducci, S. A., Donovan, T., Karp, J. A., 2004. “Minority Representation, Empowerment, and Participation.” *Journal of Politics*, 66: 534-556.
- Barnes, T. D., Saxton, G. W., 2019. “Working-Class Legislators and Perceptions of Representation in Latin America.” *Political Research Quarterly*, 72(4), 910-928.
- Batto, N. F. 2013. “Partisan and Personal Voting in SNTV: A Mixed Logit Model.” *Journal of Electoral Studies*, 20(1), 121-153.
- Bektas, E., Issever-Ekinci, E., 2019. “Who Represents Women in Turkey? An Analysis of Gender Difference in Private Bill Sponsorship in the 2011-15 Turkish Parliament.” *Politics and Gender*, 15(4), 851-881.
- Becerra-Chávez, A., Navia, P., 2022. “Gender-affinity voting in legislative elections under open-list proportional representation rules: the legislative elections

- in Chile in 2017." *Contemporary Politics*, 28(1), 99–119.
- Burden, B., 2007. *The Personal Roots of Representation*. Princeton University Press: Princeton.
- Campbell, R., Cowley, P., 2014. "What Voters Want: Reactions to Candidate Characteristics in a Survey Experiment." *Political Studies*, 62(4), 745–765.
- Carella, L., Eggers, A., 2024. "Electoral Systems and Geographic Representation." *British Journal of Political Science*, 54(1), 40–68.
- Carey, John M., Shugart, M. S., 1995. "Incentives to Cultivate a Personal Vote: A Rank Ordering of Electoral Formulas." *Electoral Studies* 14(4): 417–439.
- Carnes, N., Lupu, N., 2023. "The Economic Backgrounds of Politicians." *Annual Review of Political Science*, 26: 253–270.
- Casellas, J. P., Leal, D. L., 2013. "Partisanship or population? House and Senate immigration votes in the 109th and 110th Congresses." *Politics, Groups and Identities*, 1(1), 48–65.
- Cobb, M. D., Jenkins, J. A., 2001. "Race and the Representation of Blacks' Interests During Reconstruction." *Political Research Quarterly*, 54(1): 181–204.
- Cox, G. W., Fiva, J. H., Smith, D. M., Sørensen, R. J., 2021. "Moral Hazard in Electoral Teams: List Rank and Campaign Effort." *Journal of Public Economics*, 200.
- Curry, J. M., Haydon, M. R., 2018. "Lawmaker Age, Issue Salience, and Senior Representation in Congress." *American Politics Research*, 46(4), 567–595.
- Depauw, S., Martin, S., 2009. "Legislative Party Discipline and Cohesion in Comparative Perspective" in Giannetti, Daniela & Benoit, Kenneth (arg.). *Intra-Party Politics and Coalition Governments*, 103–120. Routledge.
- Eulau, H., Karpes, P. D., 1977. "The Puzzle of Representation: Specifying Components of Responsiveness." *Legislative Studies Quarterly*, 2(3): 233–254.
- Fiva, J. H., Halse, A. H., Smith, D. M., 2021. "Local Representation and Voter Mobilization in Closed-list Proportional Representation Systems", *Quarterly Journal of Political Science*, 16(2): 185–213.
- Folke, O., Rickne, J. K., Smith, D. M., 2021. "Gender and Dynastic Political Recruitment." *Comparative Political Studies*, 54(2): 339–371.

- Foster Shoaf, N. R., Parsons, T. N., 2016. "18 million cracks, but no cigar: News media and the campaigns of Clinton, Palin, and Bachmann." *Social Sciences*, 5(3).
- Frederick, B., 2010. "Gender and Patterns of Roll Call Voting in the U.S. Senate." *Congress & the Presidency*, 37(2), 103-124.
- Frederick, B., 2011. "Gender turnover and roll call voting in the US senate." *Journal of Women, Politics and Policy*, 32(3), 193-210.
- Frederick, B., 2013. "Gender and Roll Call Voting Behavior in Congress: A Cross-Chamber Analysis." *The American Review of Politics*, 34: 1-20.
- Frederick, B., 2015. "A longitudinal test of the gender turnover model among U.S. House and Senate members." *Social Science Journal*, 52(2): 102-111.
- Forman-Rabinovici, A., Beeri, I., 2024. "Descriptive and Symbolic: The Connection Between Political Representation and Citizen Satisfaction with Municipal Public Services." *American Review of Public Administration*, 54(1): 3-18.
- Fox, R. L., Lawless, J. L., 2005. "To Run or Not to Run for Office: Explaining Nascent Political Ambition." *American Journal of Political Science*, 49: 642-659.
- Gay, C., 2002. "Spirals of Trust? The Effect of Descriptive Representation on the Relationship between Citizens and Their Government." *American Journal of Political Science*, 46(4): 717-32.
- Greiner, D. J., & Rubin, D. B., 2011. "Causal Effects of Perceived Immutable Characteristics." *The Review of Economics and Statistics*, 93(3), 775-785.
- Griffin, J. D., 2014. "When and why minority legislators matter." *Annual Review of Political Science*, 17: 327-336.
- Hero, R. E., Preuhs, R. R., 2010. "Black-Latino Political Relationships: Policy Voting in the U.S. House of Representatives." *American Politics Research*, 38(3): 531-562.
- Horiuchi, Y., Smith, D. M., Yamamoto, T., 2020. "Identifying voter preferences for politicians' personal attributes: a conjoint experiment in Japan." *Political Science Research and Methods*, 8: 75-91.
- Huddy, L., Terkildsen, N., 1993. "The Consequences of Gender Stereotypes for Women Candidates at Different Levels and Types of Office." *Political Research Quarterly*, 46(3): 503-525.

- Hutchings, V. L., McClerking, H. K., Charles, G., 2004. "Congressional Representation of Black Interests: Recognizing the Importance of Stability." *Journal of Politics*, 66: 450-468.
- Jacob, S., 2014. "Gender and legislative performance in India." *Politics and Gender*, 10(2): 236-264.
- Jeong, H. O., 2013. "Minority Policies and Political Participation Among Latinos: Exploring Latinos' Response to Substantive Representation." *Social Science Quarterly*, 94(5): 1245-1260.
- Kang, W. C., Sheppard, J., Snagovsky, F., Biddle, N., 2021. "Candidate sex, partisanship and electoral context in Australia." *Electoral Studies*, 70.
- Kaur, K. P., Philips, A. Q., 2025. "Sustainable representation through electoral quotas: evidence from India." *Politics, Groups, and Identities*, 1-21.
- Krcmaric, D., Nelson, S. C., & Roberts, A., 2020. "Studying Leaders and Elites: The Personal Biography Approach". *Annual Review of Political Science*, 23: 133-151.
- Karekurve-Ramachandra, V., Lee, A., 2024. "Can Gender Quotas Improve Public Service Provision? Evidence From Indian Local Government." *Comparative Political Studies*, 58(5): 924-962.
- Kweon, Y., Ryan, J. M., 2022. "Electoral Systems and the Substantive Representation of Marginalized Groups: Evidence from Women's Issue Bills in South Korea." *Political Research Quarterly*, 75(4): 1065-1078.
- Lawless, J. L., 2015. "Female candidates and legislators." *Annual Review of Political Science*, 18: 349-366.
- Lazarus, J., Steigerwalt, A., Clark, M., 2023. "Time Spent in the House: Gender and the Political Careers of U.S. House Members." *Politics and Gender*, 19(1): 97-132.
- Lefkofridi, Z., Giger, N., Holli, A. M., 2019. "When All Parties Nominate Women: The Role of Political Gender Stereotypes in Voters' Choices." *Politics and Gender*, 15(4), 746-772.
- Lo, A., Judge-Lord, D., Hudson, K., 2023. "Mapping Literature with Networks: An Application to Redistricting." *Political Analysis*, 31(4): 669-678.
- Mackenzie, S. A., 2015. "Life before Congress: Using Precongressional Experience to Assess Competing Explanations for Political Professionalism." *The*

- Journal of Politics*, 77(2): 505–518.
- Magni, G., Reynolds, A., 2021. “Voter preferences and the political underrepresentation of minority groups: Lesbian, gay, and transgender candidates in advanced democracies.” *Journal of Politics*, 83(4): 1199–1215.
- Martin, S., 2011. “Using Parliamentary Questions to Measure Constituency Focus: An Application to the Irish Case.” *Political Studies*, 59: 472–488.
- Mathew, N. A., 2018. “Evangelizing Congress: The Emergence of Evangelical Republicans and Party Polarization in Congress.” *Legislative Studies Quarterly*, 43: 409–455.
- Matos, Y., Greene, S., Sanbonmatsu, K., 2021. “TRENDS: Do Women Seek “Women of Color” for Public Office? Exploring Women’s Support for Electing Women of Color.” *Political Research Quarterly*, 74(2): 259–273.
- McClellan, C. T., Ono, Y., 2024. “Too Young to Run? Voter Evaluations of the Age of Candidates.” *Political Behavior*, 46: 2333–2355.
- McDermott, M. L., 2005. “Candidate Occupations and Voter Information Shortcuts.” *The Journal of Politics*, 67(1): 201–219.
- Medir, L., Navarro, C., Magnier, A., Cabria, M., 2022. “Women Leadership at the Apex. The Distinctiveness of Urban Women Mayors in Europe.” *Urban Research & Practice*, 17(1): 118–138.
- Miwa, H., 2024. “Why Voters Prefer Politicians With Particular Personal Attributes: The Role of Voter Demand for Populists.” *Political Studies*, 73(2): 725–752.
- Miwa, H., Hoppo, M., Odaka, K., 2022. “Are voters less persuaded by female than by male politicians’ statements? A survey experiment in Japan.” *Journal of Elections, Public Opinion and Parties*, 32(2): 429–438.
- Mori, Y., Rajasekhar, D., Manjula, R., Kurosaki, T., Goto, J., 2024. “Do Women Council Members Allocate More Public Goods? Evidence from Rural India.” *Economic Development and Cultural Change*, 73(1): 451–486.
- Muraoka, T., 2018. “Political Dynasties and Particularistic Campaigns.” *Political Research Quarterly*, 71(2): 453–466.
- Nowacki, T., Forthcoming. “The Gender Gap in Political Careers Under Proportional Representation.” *The Journal of Politics*.
- Nyholt, N., 2024. “Why Do Voters Prefer Local Candidates? Evidence from a

- Danish Conjoint Survey Experiment." *Political Behavior*, 46: 2313–2332.
- Ono, Y., Endo, Y., 2024. "The Underrepresentation of Women in Politics: A Literature Review on Gender Bias in Political Recruitment Processes." *Interdisciplinary Information Sciences*, 30(1): 36–53.
- Pas D. J., Aaldering, L., Steenvoorden E., 2022. "Gender bias in political candidate evaluation among voters: The role of party support and political gender attitudes." *Frontiers in Political Science*, 4.
- Pereira, F. B., 2021. "Prejudice, Information, and the Vote for Women in Personalized PR Systems: Evidence from Brazil." *Journal of Women, Politics & Policy*, 42(4): 297–313.
- Poggione, S., 2004. "Exploring Gender Differences in State Legislators' Policy Preferences." *Political Research Quarterly*, 57(2): 305–14.
- Preuhs, R. R., & Gonzalez Juenke, E. 2011. "Latino U.S. State Legislators in the 1990s: Majority-Minority Districts, Minority Incorporation, and Institutional Position." *State Politics & Policy Quarterly*, 11(1): 48–75.
- Put, G.-J., 2021. "Is there a friends-and-neighbors effect for party leaders?" *Electoral Studies*, 71.
- Put, G.-J., Smulders, J., Maddens, B., 2018. "How local personal vote-earning attributes affect the aggregate party vote share: Evidence from the Belgian flexible-list PR system (2003–2014)." *Politics*, 39(4): 464–479.
- Quoß, F., Rudolph, L., Däubler, T., 2024. "How does information affect vote choice in open-list PR systems? Evidence from a survey experiment mimicking real-world elections in Switzerland." *Electoral Studies*, 91.
- Rehmer, J., 2022. "Party Elites' Preferences in Candidates: Evidence from a Conjoint Experiment." *Political Behavior*, 44: 1149–1173.
- Rocca, M. S., Sanchez, G. R., 2007. "The Effect of Race and Ethnicity on Bill Sponsorship and Cosponsorship in Congress." *American Politics Research*, 36(1): 130–152.
- Rocca, M. S., Sanchez, G. R., Uscinski, J., 2008. "Personal attributes and latino voting behavior in Congress." *Social Science Quarterly*, 89(2): 392–405.
- Rocca, M. S., Sanchez, G. R., Nikora, R., 2009. "The Role of Personal Attributes in African American Roll-Call Voting Behavior in Congress." *Political Research Quarterly*, 62(2): 408–414.



- Russo, F., 2022. *MPs' Roles and Representation: Orientations, Incentives and Behaviours in Italy*. Routledge: Abingdon.
- Saito, H., 2025. "Voter Evaluations of Youth Politicians: A Conjoint Experiment of Candidates' Young Age in Japan." *Journal of Applied Youth Studies*.
- Schwarz, S., Coppock, A., 2022. "What Have We Learned About Gender From Candidate Choice Experiments? A Meta-analysis of 67 Factorial Survey Experiments." *The Journal of Politics*, 84(2): 655-668.
- Sen, M., Wasow, O., 2016. "Race as a Bundle of Sticks: Designs that Estimate Effects of Seemingly Immutable Characteristics". *Annual Review of Political Science* 19: 499-522.
- Sevi, S., 2021. "Do young voters vote for young leaders?" *Electoral Studies*, 69.
- Sharpe, C. L., Garand, J. C., 2001. "Race, Roll Calls, and Redistricting: The Impact of Race-Based Redistricting on Congressional Roll-Call." *Political Research Quarterly*, 54(1): 31-51.
- Shugart M. S., Valdini M. E., Suominen K., 2005. "Looking for Locals: Voter Information Demands and Personal Vote-Earning Attributes of Legislators under Proportional Representation". *American Journal of Political Science* 49(2): 437-449.
- Sipinen, J., Söderlund, P., 2024. "Explaining the migrant-native vote gap under open-list proportional representation." *Party Politics*, 30(2), 345-355.
- Smith, D. M., 2018. *Dynasties and Democracy: The Inherited Incumbency Advantage in Japan*. Stanford University Press: Stanford.
- Snagovsky, F., Kang, W. C., Sheppard, J., Biddle, N., 2020. "Does descriptive representation increase perceptions of legitimacy? Evidence from Australia." *Australian Journal of Political Science*, 55(4): 378-398.
- Snyder, H., 2019. "Literature review as a research methodology: An overview and guidelines". *Journal of Business Research* 104: 333-339.
- Söderlund, P., & von Schoultz, Å., 2024. "Trajectories of the personal vote under open-list proportional representation: Evidence from Finland, 1999-2019." *Party Politics*, 30(1): 12-23.
- Suzuki, K., & Avellaneda, C. N., 2018. "Women and risk-taking behaviour in local public finance." *Public Management Review*, 20(12): 1741-1767.
- Sweet-Cushman, J., Bauer, N. M., (2024). "Intersectional Motherhood and

- Candidate Evaluations in the United States.” *Politics and Gender*, 20(3), 598–619.
- Tavits, M., 2010. “Effect of Local Ties on Electoral Success and Parliamentary Behavior: The Case of Estonia.” *Party Politics*, 16(2): 215–235.
- Townsley, J., Trumm, S., & Milazzo, C., 2022. “‘The personal touch’: Campaign personalisation in Britain.” *The British Journal of Politics and International Relations*, 24(4): 702–722.
- Ulbig, S. G., 2007. “Gendering Municipal Government: Female Descriptive Representation and Feelings of Political Trust.” *Social Science Quarterly* 88(5): 1106–23.
- Vajda, A., Ilonszki, G., 2021. “Gendered parties and gendered voters in Hungary? “Plus ça change, plus c’est pariel.”” *East European Politics*, 37(4): 617–634.
- Vanderleeuw, J. M., Sandovici, M. E., Jarmon, C. A., 2011. “Women city leaders and Postmaterialist values: Gender differences in economic development priorities.” *Journal of Women, Politics and Policy*, 32(3): 211–236.
- van de Voorde, N., 2019. “Does multiple office-holding generate an electoral bonus? Evidence from Belgian national and local elections.” *West European Politics*, 42(1): 133–155.
- Wagner, A., 2021. “Avoiding the spotlight: public scrutiny, moral regulation, and LGBTQ candidate deterrence.” *Politics, Groups, and Identities*, 9(3): 502–518.
- Wängnerud, L., 2009. “Women in Parliaments: Descriptive and Substantive Representation”. *Annual Review of Political Science* 12: 51–69.
- Weeks, A. C., Baldez, L., 2015. “Quotas and qualifications: The impact of gender quota laws on the qualifications of legislators in the Italian parliament.” *European Political Science Review*, 7(1): 119–144.
- Wilson, W. C., 2010. “Descriptive Representation and Latino Interest Bill Sponsorship in Congress.” *Quarterly Journal of Political Science*, 91(4): 1043–1062.
- Xiao, Y., Watson, M., 2019. “Guidance on Conducting a Systematic Literature Review.” *Journal of Planning Education and Research*. 39(1): 93–112.
- 芦谷圭祐. 2020a. 「代表論的転回と実証分析の動向 (一)」『阪大法学』69, 1333–1362.
- 芦谷圭祐. 2020b. 「代表論的転回と実証分析の動向 (二・完)」『阪大法学』70,

67-96.

西村翼. 2020. 「政党の公認戦略と地元候補：規定要因としての選挙結果」『年報政治学』2020年2号.

ピトキン, ハンナ. 2017. 『代表の概念』早川誠訳. 名古屋大学出版会.

\* 本研究は日本学術振興会科学研究助成費若手研究24K16302の助成を受けている。

